

会 議 記 録

名 称	平成 28 年度 第 2 回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	平成 28 年 12 月 13 日 (火) 午後 6 時半～ 中央区役所 8 階 第 1 会議室	
出席者	委 員	西郷泰之 (会長)、渡邊浩志、埜佳生、佐久間貴子、山下智子、鈴木和子、太田禎子、酒井寛昭、山下久子、大塚裕永、鈴木英子、加藤恵子、薩埵稔、黒川眞、中橋猛
	区側出席者	福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 福祉保健部健康推進課長 教育委員会事務局庶務課長 教育委員会事務局学務課長 教育委員会事務局指導室幼児教育担当専門幹 福祉保健部子育て支援課保育計画指導係長
配布資料	<p>[事前配布資料]</p> <p>資 料 1-1 中央区子ども・子育て支援事業計画の進捗状況の管理について</p> <p>資 料 1-2 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理</p> <p>資 料 1-3 個別事業の進捗状況管理</p> <p>資 料 2 将来人口推計</p> <p>資 料 4 確認対象施設の利用定員一覧</p> <p>[当日配布資料]</p> <p>資 料 3-1 平成 29 年 4 月認可保育園等入園申込状況</p> <p>資 料 3-2 区立幼稚園児の応募状況について</p> <p>資 料 4 確認対象施設の利用定員一覧 (図面)</p>	
議事の概要	<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 題</p> <p>(1) 子ども・子育て支援事業計画における進捗状況の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理 ・ 個別事業の進捗状況管理 <p>(2) 新たな人口推計について</p> <p>(3) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年 4 月認可保育所等入園申込状況及び区立幼稚園児の応募状況について <p>(4) 子ども・子育て支援法に基づく意見聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 29 年 4 月開設予定の認可保育所の利用定員について <p>3. 閉 会</p>	

平成 28 年 12 月 13 日（火）

午後 6 時半～

中央区役所 8 階 第一会議室

1. 開会

委員出欠と配布資料について説明が行われた。

2. 議題

（1） 子ども・子育て支援事業計画における進捗状況の管理について

- ・ 主な事業の量の見込みと確保方策の進捗状況管理
- ・ 個別事業の進捗状況管理

事務局から資料 1-1、1-2、1-3 について説明が行われた。

大塚委員 子育て短期支援事業（子どもショートステイ）の定員が 6 名とあるが、1 日の希望者数が 6 名を超えることはないか。

事務局（子ども家庭支援センター所長） 利用がそれほど多くないのと、兄弟等で入りたいということであれば他区の枠分を借りたりしているので、今のところは枠内でおさまっている。

鈴木英子委員 子育て短期支援事業（子どもショートステイ）で協力家庭が全然利用されないのはなぜか。

事務局（子ども家庭支援センター所長） 平成 27 年度までは利用がなかったが、今年度は 1 件あった。協力家庭よりも施設に預けたいという保護者の考えがあるのではないか。また、協力家庭は 2 歳以上からの預かりとなっている。

西郷会長 量については具体的に一定程度の前進が見られた。質については委員からの意見を受け、改善していくという区の考えが示されている。ただ、質の改善・向上のメルクマールというか、骨太の方針のようなものを示してもらったほうが、具体的な議論になると思う。

（2） 新たな人口推計について

事務局から資料 2 について説明が行われた。

山下久子委員 年齢が上がるにつれて人口が減るのはなぜか。

また、乳幼児人口が増えるのは世帯数の増加と第 2 子、第 3 子といった子どもの人数の増加のどちらを見込んでいるのか。

事務局（子育て支援課長） この人口推計は出生や死亡、人口移動等の変動要因をもとに、各年齢層ごとに推計するコーホート要因法という手法をとっている。ある程度の人口流動の比率を掛け合わせながら、一種の計算式を使って算出するため、年齢が上がるに従って、人口が減ったり、逆に流入の多い年齢層は増えたりする。推計手法の問題で、実績とは多少違いが出てくる。

乳幼児人口が増えることについては、世帯数の増加と子どもの数の増加のどちらによるものかは分からない。

実感としては、兄弟での保育所の申し込みがかなり増えてきているので、第2子もかなり増えていると思われるが、正確な数字はとっていない。

西郷会長

要は、現在の計画では確保量が足りないということが、全体的によりはっきりしたということである。人口が増えることは中央区としてはとても良いことだが、課題は大きい。

佐久間委員

最初にこの会議に出席したとき、区長が「中央区はベビーブームだ」と言ったことが印象に残っている。人口増は素晴らしいことだと思うが、これだけ人口が増えていくというのは、湾岸エリアの高層マンションの影響が大きいのか。

これから勝どきや月島エリアの施設整備をしていく中で、保育所や幼稚園、学童クラブ等を中央区の計画の中に必ず入れていくということは考えているか。

事務局（子育て支援課長）

月島、勝どき、晴海は、タワーマンションが1つできると1,000世帯近く入るが、増加率等を見ると日本橋地域もかなり増えている。日本橋地域は100世帯前後のファミリー向け中規模マンションがかなり建っているので、当初この計画を立てるときも、日本橋地域が一番保育所をつくらないといけない地域になっていた。京橋地域は比較的落ちついている状況である。

晴海等に関しては、選手村跡地に保育施設をつくるよう東京都へ要望しており、保育所になるかどうかまだ分からないが、250人規模の保育施設をつくる計画はある。それだけにとどまらず、周辺の開発の進捗等も見きわめつつ、第2次子ども・子育て支援事業計画以降の話になると思うが、どの程度の施設が必要か計画の中で明らかにしなければならないと考えている。

(3) 報告事項

- 平成29年4月認可保育所等入園申込状況及び区立幼稚園児の応募状況について事務局から資料3-1、3-2について説明が行われた。

大塚委員

認定こども園の短時間保育の申込件数に勝どきこども園が含まれていないのはなぜか。

事務局（子育て支援課長）

勝どきこども園は私立の認定こども園であり、短時間保育については私立幼稚園と同様、園に直接申し込みをして契約してもらうため、区は入園申込みにかかわっていない。

(4) 子ども・子育て支援法に基づく意見聴取

- ・ 平成 29 年 4 月開設予定の認可保育所の利用定員について

事務局から資料 4 について説明が行われた。

山下久子委員 恐らくいずれも園庭のないビル内保育所だと思うが、公園は足りているのか。

事務局（子育て支援課長） 基本的には近くの児童公園・児童遊園を代替遊戯場として指定しているが、複数の保育所が同じ公園等を指定しても構わないので、現状では、保育所の子どもが公園等を利用して保育所に通っていない子どもが使いづらいとか、公園を占有されているというご意見をいただくこともある。今後は、園庭のある保育所との交流等も進めなければいけない。

平成 30 年度以降、豊海で水産工場の建て替えが予定されている。福利厚生施設としてフットサル場をつくるということで、日中はそこを保育所等に開放してもらえる話もいただいております、どのように利用していくのか方策も考えたい。

西郷会長 今の話は、地域によっては深刻な事態だ。地域の住民の方から見た子どもたちの遊び場についての実態は委員を通じてこの会議の場で伝えてもらうことが必要かもしれない。

大人にとっては余り重視しなくても良いように思うかもしれないが、子どもにとってはとても大きな意味合いのあることなので、考えなければいけない。

大塚委員 前回の会議資料には月島地域の保育所で定員を拡大する予定があったと思うが、この資料には載っていない。近隣住民の反対で平成 29 年 4 月の定員拡大が難しくなったと聞いたが、そのことについて報告しなくても大丈夫か。

事務局（子育て支援課長） 月島地域の認証保育所から認可保育所に移行する予定であった保育所について、住民の方から反対意見が出て、平成 29 年 4 月の移行は難しい状況となった。保育事業者が住民だけではなく不動産管理会社等も含めて引き続き調整を進め、認可保育所に移行できるよう交渉中と聞いている。区としても保育所は必要と認識しており、区の現状を説明して理解に努めたい。住民の不安の声も聞きつつ、それを取り除いていく必要もある。

山下久子委員 反対者の声の主な内容は何か。

事務局（子育て支援課長） エレベーター等共用部分の使用や、騒音の問題である。保育所の騒音というよりも、保育所を出た後の送り迎え時の声への不安や、保育所ができることで今までの生活と状況が大きく変わってしまうのではないかという不安があるようである。

西郷会長 不安をなるべく解消して保育所をつくれるのが一番良いと思うが、既存のマンションの中に保育所をつくる形なので、住民の方にきちん

と説明をしていかなければいけない。

3. 閉会

西郷会長から閉会の宣言を行う。